

【保育専門課程】 シラバス

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（健康）Ⅰ		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
保育者は、子どもの心身の健康を保持し、安全を守ることが求められることから、子どもの心身の状態や発達状態を理解することが重要である。 また、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることも踏まえ、保育者の役割や子どもへの指導援助方法を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
保育内容演習（健康）Ⅰについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 1. 領域「健康」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもの健康をめぐる現状を理解し、健康な生活リズムの形成について具体的な保育方法を学ぶ。 3. 子どもの身体の諸機能および運動発達の特徴と意義を理解する。 4. 安全管理や安全教育のあり方と指導援助方法を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	子どもの健康を取り巻く諸問題		
3	保育・幼児教育における領域「健康」の位置付け		
4	1歳以上3歳未満児における領域「健康」のねらいおよび内容の理解		
5	3歳以上児の領域「健康」のねらいおよび内容の理解		
6	子どものからだと発達・発達		
7	健康な生活リズムの理解と形成①（生活リズムの理解）		
8	健康な生活リズムの理解と形成②（活動と睡眠のバランス）		
9	健康な生活リズムの理解と形成③（食習慣の形成と食育）		
10	保育における運動遊び		
11	安全管理と安全教育		
12	健康づくり啓発ポスター・園だよりの作成①		
13	健康づくり啓発ポスター・園だよりの作成②		
14	保育者の健康観		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
①確認テスト（60点）、②授業への参加・意欲・提出物（40点）の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、現代の子どもの姿や園での様子等、映像なども適宜取り入れる。 担当教員は、食育インストラクターの資格を有し、また幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育原理		笹井 美佐 他
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育の意義及び目的について理解し、説明することができる。			
②保育に関する法令及び制度を理解する。			
③保育所保育指針に示されている保育の基本原理を理解する。			
④保育の歴史を踏まえて現代の保育の意義を理解する。			
⑤これからの保育の課題について理解する。			
【講義概要】			
今日の保育を支える保育思想の源流を学び、保育の根拠をなす子どもや保育をみることの意義と目的について学ぶ。そして保育所保育指針に示された保育の意味や実践のあり方について基本となる知識を身に付ける。自らの保育者像や保育観を構築する土台を習得し、これからの保育の課題や保育者のあり方について考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、保育の意義①保育について考える		
2	保育の意義②保育の社会的役割と責任		
3	子どもと保育に関する法令および制度		
4	保育の基盤としての子ども観		
5	保育所保育指針に基づく保育①保育所保育指針とは何か		
6	保育所保育指針に基づく保育②保育指針の内容		
7	保育所保育指針に基づく保育③保育指針に基づく保育の展開		
8	保育所保育の方法		
9	保育の計画・実践および評価		
10	歴史から保育を理解する①西欧の保育思想と歴史的変遷		
11	歴史から保育を理解する②日本の保育思想と歴史的変遷		
12	保育者が大切にしたい5つの保育原理		
13	多様化する保育者・保育の場、保育者のあり方を考える		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践を繋ぐ）		
【成績評価方法】			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容（授業時に回収）10点の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。			
担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	社会的養護Ⅰ		都留 和光
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。			
【講義概要】			
現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探究する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、今日の子どものとりまく家庭と社会の状況について		
2	社会的養護の理念と概念、歴史の変遷		
3	子どもの人権擁護と社会的養護		
4	社会的養護の基本原則		
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務		
6	社会的養護の制度と法体系		
7	社会的養護のしくみと実施体系		
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		
9	社会的養護の対象と支援のあり方		
10	家庭養護と施設養護		
11	社会的養護にかかわる専門職		
12	社会的養護に関する社会的状況		
13	施設等の運営管理の現状と課題		
14	まとめ①（被措置児童等の現状と課題）		
15	まとめ②（社会的養護の現状と課題） ＜上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する＞		
【成績評価方法】			
①試験70％、②授業への参加・意欲30％として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
少人数での強みを活かして社会的養護の基本を考えて行く機会とする。講師は、社会的養護の当事者であり、児童養護施設、乳児院の職員、施設長として働いてきた経験を活かし、社会的に守られるべき対象の子どもたちへの歴史や背景、「子どもの権利」当事者の立場を考えながら学ぶ機会にする。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	社会福祉		鶴 清忠
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史の変遷、子ども家庭支援について説明できる。			
2. 社会福祉の制度・実施体系について説明できる。			
3. 社会福祉における相談援助・利用者保護について説明できる。			
4. 社会福祉の動向・課題について説明できる。			
【講義概要】			
保育士に求められる社会福祉の基礎知識（社会福祉に関係する問題・課題、社会福祉の役割・意義・歴史、社会福祉の対象、社会福祉の実践、近年の動向・課題）について学習します。また、保育者として家庭支援の視点を踏まえて学ぶことを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か		
2	社会福祉の歴史～欧米編～		
3	社会福祉の歴史～日本編～		
4	子どもの権利と福祉		
5	福祉のニーズと福祉サービス		
6	社会福祉を取り巻く現状		
7	子育て支援		
8	障害児・者福祉、高齢者福祉		
9	社会的養護		
10	生活困窮者福祉		
11	相談援助の基礎		
12	福祉の担い手～専門職とボランティア～		
13	福祉サービス利用者支援		
14	社会福祉再考（保育者として）		
15	社会福祉の動向と課題		
【成績評価方法】			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（20点）、③小テスト・小レポート（20点）の合計100点として成績評価を行います。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義に加えてグループワークを行うことにより、互いが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。			
担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			
指定テキストはありません。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭福祉		荒木 光
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 子どもや子育て家庭を取り巻く環境・課題について説明できる。 2. 子どもの権利や、子ども家庭福祉の理念について説明できる。 3. 子ども家庭福祉に関わる法令や、社会的施策について説明できる。 4. 子ども家庭支援の意義について説明できる。			
【講義概要】			
保育士に求められる子ども家庭福祉に関する基礎知識（子どもや子育て家庭を取り巻く環境、子どもの人権擁護、歴史、法律・制度、現状と課題、動向と展望）を学習します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	子ども家庭福祉とは何か		
2	子どもや子育て家庭を取り巻く環境①（子どもの生活環境の変化）		
3	子どもや子育て家庭を取り巻く環境②（子育て環境の変化）		
4	子どもや子育て家庭を取り巻く環境③（子ども・子育てに関する課題）		
5	子どもの権利		
6	子ども家庭福祉の理念		
7	子ども家庭福祉に関する法令①（児童福祉法以外の児童福祉6法）		
8	子ども家庭福祉に関する法令②（児童福祉法の概要）		
9	子ども家庭福祉に関する法令③（児童福祉法の改正）		
10	子ども家庭福祉の実施機関①（国・地方公共団体、行政組織、その他の団体）		
11	子ども家庭福祉の実施機関②（児童福祉施設）		
12	子ども家庭福祉の専門職		
13	子ども家庭福祉の歴史		
14	子育て支援と子どもに関する諸問題		
15	地域における連携・協働		
【成績評価方法】			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員は、幼児から成人の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	スタジオエクササイズⅠ（運動・表現あそびⅠ）		清水 麻希
【授業の到達目標・およびテーマ】			
スタジオエクササイズの指導に必要な基礎知識学習し、安全且つ効果的にプログラムを構成、提供出来るスキルを身につける。			
【講義概要】			
実践練習を多く行い、下記のテーマから学習を深める。			
①エアロビクスの動作の習得 ②指導に必要なスキルの実践練習 ③指導内容のプログラミング			
回	授業計画および学習の内容		
1	学習テーマの共有。エアロビクス体験。		
2	動きの分類① 動作練習		
3	動きの分類② 動作練習 音楽の理解		
4	指導に必要なスキル①		
5	指導に必要なスキル②		
6	指導練習①		
7	指導練習②		
8	プログラミング①		
9	プログラミング②		
10	指導練習③		
11	指導練習④		
12	実技テスト		
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
①出席率20% ②授業で課題に取り組む姿勢20% ③実技テスト60% これらを総合的に評価する			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実践を多く行い、スタジオエクササイズで指導が出来る基本的なスキルを身に付ける。			
教員は大手スポーツクラブのアドバイザー、採用試験担当、新入社員研修、社員研修、フィットネス業界向けの研修を行っている。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	スポーツ心理学（保育の心理学）		高橋 星斗羅
【授業の到達目標・およびテーマ】			
この授業では、スポーツ選手の競技力向上及びスポーツ指導に必要な心理学の理論や知識について、理解を深めていくことを目的とする。 具体的には、スポーツと心の関係、動機づけの方法、スポーツ心理学の学術的背景を持つメンタルトレーニングについて学ぶ。			
【講義概要】			
スポーツの心理について、以下の4つのテーマから進める 1. スポーツ心理学の知識を理解し、スポーツと心の関係性を学習する、2. メンタルトレーニングを理解し、実践方法を学習する、3. メンタルトレーニングを指導者（コーチ・AT・PTなど）として、どのように応用するかを学習する、4. ペアワークやグループワークを通して、コミュニケーションスキルを学習する			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	動機づけ		
3	メンタルトレーニング①目標設定		
4	メンタルトレーニング②緊張のコントロール		
5	マインドセット		
6	メンタルトレーニング③イメージ		
7	メンタルトレーニング④集中力		
8	チームビルディング		
9	メンタルトレーニング⑤ポジティブ思考・セルフトーク		
10	メンタルトレーニング⑥コミュニケーション		
11	メンタルトレーニング⑦試合に対する心理的準備		
12	コーチングの心理		
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
①授業への参加・意欲（40点）、②最終試験（60点）の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、ペアワークやグループワークを行い、テーマについてディスカッションも行う。適宜、メンタルトレーニングやトップアスリートのメンタル面に関する映像なども取り入れる。 担当教員は、中高生に向けたスポーツ心理学の授業や同年代のアスリートを対象とした心理サポートを実施している。スポーツ心理学やコーチング心理学の学術的背景に基づいた授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（必修）	社会体育概論（体育理論）		奥玉 南 他
【授業の到達目標・およびテーマ】			
本講義では、社会体育に関する基礎的な知識を身につけ、業界の多様な側面を理解することを目的とする。各専門分野の教員がそれぞれの視点から講義を行い、スポーツ・健康・レクリエーション・地域振興・スポーツビジネスなど、社会体育の多様な領域を総合的に学ぶ。			
【講義概要】			
本講義では、社会体育の基礎知識を学びながら、業界の実践的な側面についても理解を深める。オムニバス形式を採用し、各回で異なる専門分野の教員が担当するため、多角的な視点で学びを深めることができる。講義では、社会体育の歴史、スポーツ政策、地域スポーツ、健康増進、フィットネス産業など幅広いテーマを扱い、業界全体の現状と課題について考察する。			
また、社会体育の現場で活躍する実務家や専門家の講義を通じて、実践的な知識を学ぶ機会も設ける。ディスカッションや課題レポートを通じて、各自の関心に応じた探究を深めることも重視する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	社会体育とは		
2	危険と向き合う		
3	地域との協働によるスポーツクラブの取組		
4	コーチング現場のリアル		
5	アスリートの身体を支えるストレngths&コンディショニングの役割		
6	水泳指導の実践とライフステージに応じたスポーツ教育		
7	コミュニティ活動とスポーツ		
8	自然と人をつなぐスポーツ：野外活動の魅力と実践		
9	キャリア形成①		
10	キャリア形成②		
11	キャリア形成③		
12	キャリア形成④		
13	実践演習Ⅰ		
14	実践演習Ⅱ		
15	実践演習Ⅲ		
【成績評価方法】			
以下2点の合計より成績評価を行う。			
①レポート(90点)②授業への参加・意欲(10点)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
オムニバス形式を採用し、社会体育の各分野に精通した専門教員が担当することで、広範なテーマを扱う。			
授業の形式としては、スライドを用いた講義を基本としながらも、ディスカッションやグループワークを積極的に取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（必修）	運動の基礎実技Ⅰ（体育実技）		奥玉・宇多村・水口
【授業の到達目標・およびテーマ】			
運動・スポーツにおける基礎的な運動能力の向上を目指し,スポーツ指導者としての基本的な能力(理論・指導技術)を養うことをねらいとする。さらに運動能力の目安としてウエイトトレーニング・ウォーキングジョギング・マット運動の各課題を達成を卒業までの条件とする。			
【講義概要】			
以下の3つのテーマに沿って授業を展開していく 1.ウエイトトレーニング・ウォーキングジョギング・マット運動の課題達成のための練習 2.指導に必要な基礎的な体力の向上を図る 3.年2回実施する運動能力テストで各自の体力レベルの把握			
回	授業計画および学習の内容		
1	運動能力テスト		
2	トレーニング/課題①		
3	トレーニング/課題②		
4	トレーニング/課題③		
5	トレーニング/課題④		
6	トレーニング/課題⑤		
7	トレーニング/課題⑥		
8	トレーニング/課題⑦		
9	トレーニング/課題⑧		
10	トレーニング/課題⑨		
11	トレーニング/課題⑩		
12	トレーニング/課題⑪		
13	トレーニング/課題⑫		
14	トレーニング/課題⑬		
15	トレーニング/課題⑭		
【成績評価方法】			
①出席状況,②目標課題における到達度,③態度(授業への取り組みやリーダーシップ,周囲への配慮等)の3項目において行い,総合的に判断する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技形式で目標課題の達成のための練習を進めていく.指導者を志す者としての身なりや授業に取り組む姿勢を大切にしていきたい。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
	スポーツ指導論Ⅰ		関野 義秀
【授業の到達目標・およびテーマ】			
指導者に必要な知識・技能や指導方法のベースを習得することをねらいとする。また社会の中でのスポーツの位置付けや、その指導者の役割なども理解していく。さらに、指導者としての質や基本的な姿勢(リーダーシップやコミュニケーション能力、指導対象者に対する配慮など)をも高めていく。			
【講義概要】			
公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストの内容に沿って授業を進める。 ・指導者の役割 ・文化としてのスポーツ ・スポーツと法 ・競技者育成のための指導法			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス・スポーツとは		
2	スポーツの歴史		
3	文化としてのスポーツ		
4	スポーツ指導者とは		
5	スポーツ指導者の倫理		
6	指導者の心構え・視点		
7	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割		
8	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任・リスクマネジメント		
9	スポーツと人権・スポーツにおけるハラスメント		
10	プレーヤーと指導者の望ましい関係・コーチング		
11	ミーティングの方法		
12	世界を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割		
13	オリンピック・パラリンピックとは		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
以下3点の合計より成績評価を行う。 ①確認テスト(70点)②レポート(20点)③授業への参加・意欲(10点)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストおよび多彩な実務経験を基に、講義形式にて授業を展開。担当教員はフィンスイミング現日本記録保持者として国内外にて活躍。主な指導実績として、これまで10,000人以上を指導し、フィンスイミングでは日本代表監督、日本選手権総合優勝チームの代表兼コーチを務める。パラ水泳では視覚障害選手のパーソナルコーチを務め、東京2020出場へ貢献。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	コンピューターⅠ		渡邊・奥玉・西脇
【授業の到達目標・およびテーマ】			
様々な情報を収集・整理するために必要な情報処理能力の基礎を身につけることねらいとする。またインターネットの活用方法に加え、基本となるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方を学ぶ。			
【講義概要】			
コンピューターの使い方について以下のテーマから学習を深める			
1. ワードを用いて文書作成の仕方を学ぶ			
2. エクセルを用いてデータ計算や統計処理の仕方を学ぶ			
3. パワーポイントを用いてスライドの作成の仕方を学ぶ 回 授業計画および学習の内容			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	ワード①（文字入力：ローマ字入力・文字変換・文字飾り）		
3	ワード②（文章入力・ページ設定・印刷）		
4	ワード③（表作成・図表の貼り付け）		
5	インターネット検索および特定箇所のコピー・印刷①		
6	インターネット検索および特定箇所のコピー・印刷②		
7	エクセル①（表作成）		
8	エクセル②（表計算）		
9	エクセル③（グラフ作成①）		
10	エクセル④（グラフ作成②）		
11	パワーポイント①		
12	パワーポイント②		
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
①実技試験（タイピング、エクセル）80点、②出席状況（20点）で評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
オリジナルのテキストを用いて授業を行う。飲食の禁止、携帯電話の使用禁止などコンピュータールームでのマナーは必ず遵守すること。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	救急法と安全		湖東 祐貴
【授業の到達目標・およびテーマ】			
怪我や病気はいつどこで起きるか予想ができない。怪我の場面で勇気をもって正しい対応をとることができるような知識の習得を目指す。また、対応によって自身に危険が及ばないように自分を守ることができる対応の習得を目標とする。			
【講義概要】			
様々な怪我や病気の知識と対応の実践を行い、自分と傷病者の両方を守るための講義を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス・救急法の目的		
2	外傷・障害とその対応①		
3	外傷・障害とその対応②		
4	心肺蘇生法①		
5	心肺蘇生法②		
6	心肺蘇生法③		
7	熱中症		
8	頭頸部外傷		
9	搬送法・固定法		
10	スポーツと内科疾患		
11	スポーツと女性アスリート		
12	筆記試験		
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
筆記試験、レポート課題、出席状況を総合的に判断する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義中に内容のノートをとることを強く推奨する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	水泳水中運動Ⅰ（子どもの生活と遊び）		関野・山田・西脇
【授業の到達目標・およびテーマ】			
本講義では、従来の「泳ぐ=水泳」だけにとらわれず、スポーツとしての競泳、運動としての水中運動を水の特性を利用した運動である水泳・水中運動として多様な角度から捉える。			
泳力を向上させつつ、水中ウォーキング、アクアビクスなどの実践を体験し、スポーツクラブで指導する能力を養う。			
【講義概要】			
以下の3つのテーマに沿って授業を展開していく			
1. 近代4泳法の習得と横泳ぎ、潜水の体験と練習			
2. 指導者に求められる基礎的な泳力の向上			
3. 水中運動を指導するための基礎的な能力の養成			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス／水なれ		
2	泳力チェック／水なれ		
3	4泳法の習得と水中運動①		
4	4泳法の習得と水中運動②		
5	4泳法の習得と水中運動③		
6	4泳法の習得と水中運動④		
7	4泳法の習得と水中運動⑤		
8	4泳法の習得と水中運動⑥		
9	4泳法の習得と水中運動⑦		
10	4泳法の習得と水中運動⑧		
11	4泳法の習得と水中運動⑨		
12	テスト1		
13	テスト2		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
実技試験（80点）に出席状況（20点）を加味して成績を評価する。なお、課題のクリアを前提とする。			
前期：4泳法の習得（日本水泳連盟の競泳競技規則に即した泳ぎ）			
後期：100m個人メドレー（男子：1分40秒以内・女子：1分50秒以内）			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技形式で目標課題の達成のための練習を進めていく。担当教員はスイミングクラブや各自治体の水泳協会等で水泳指導を長年にわたり継続しており、実務経験に基づいて授業を展開していく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	野外活動概論（子ども野外活動・お泊まり保育演習）		堀 雄二
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①野外活動・お泊まり保育の意義と教育的効果を理解する。②安全で楽しい宿泊プログラムを計画できる。③保護者への説明・資料作成ができる。④グループで実践的な保育活動を構築できる。			
【講義概要】			
スポーツクラブ・学童・保育園・幼稚園における野外活動・お泊まり保育を中心に、子どもの成長を促す宿泊体験の意義、安全管理、プログラム構成、保護者対応について学ぶ。グループで企画・発表を行い、実践的な力を養う。希望者はキャンプ協会資格取得も可能。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション／授業の目的		
2	野外活動・お泊まり保育の意義と必要性		
3	子どもの成長と宿泊体験		
4	保育者の役割と関わり方		
5	お泊まり保育の実事例		
6	グループワーク①		
7	グループワーク②		
8	レクリエーション実践		
9	野外活動の基礎理解（簡易）		
10	安全管理とリスク対応		
11	お泊まり保育の準備		
12	保護者対応と説明方法		
13	プログラム作成		
14	資料・プレゼン作成		
15	発表・まとめ		
【成績評価方法】			
①レポート、発表における評価（80点）、②授業参加への取り組み（20点）の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、野外活動団体や冒険活動に関する映像なども適宜取り入れる。担当教員は、東京都社会教育事業、専門学校や民間団体のキャンプ指導の経験があり、実務経験をもとに授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	幼児体育演習Ⅰ		木原 寛子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1.ストレッチ、筋力トレーニング、リズムトレーニングを通して基本的な体力の向上を目指す。			
2.幼児期における身体的・精神的発達段階を理解したうえで、段階に応じた運動の重要性を学び、適切な指導ができる知識・技術・安全性を習得する。			
3.幼児を対象にした運動あそびをグループで実践する中で、仲間と協働し「楽しむ」気持ちや遊びの中で子どもが感じうる様々な感情について学ぶことを目標とする。			
【講義概要】			
縄跳び、ボール、フープ、マット、平均台、鉄棒、跳び箱、リズムダンスなどの実践を通して指導者としての視点や留意点を学ぶ。			
また、グループワークにて各年齢にあった運動遊びやルールづくりの実践から振り返りまでを行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	前期ガイダンス		
2	基本ステップの実践(スキップ、ツーステップ、ギャロップ他)		
3	長縄と短縄を用いた運動遊び		
4	ボールを用いた運動遊び		
5	フープを用いた運動遊び		
6	手具を組み合わせた運動遊び		
7	マット、跳び箱、平均台を用いた運動		
8	基本のリズムと身体表現		
9	グループワーク①手具を用いたリズム表現	創作ポイントの理解と曲決め	
10	グループワーク②手具を用いたリズム表現	動きの創作	
11	グループワーク③手具を用いたリズム表現	構成の確認と動きの修正	
12	グループワーク④手具を用いたリズム表現	発表と振り返り	
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
①授業への取り組み(40%)②ノート・レポートの内容(30%)③実技・発表(30%)			
上記3つを総合的に評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
幼児体育、身体表現を専門とし、保育士養成校での職務経験を有した教員がその経験を生かし幼児を対象にした運動あそびやリズム遊び等について指導する。			
この授業では、指導者となる学生自身の体づくりとして、基礎的なストレッチ、筋力トレーニングを行う。また、幼児の運動あそびを体験する中で運動補助の方法や体を動かす楽しさ、運動有能感を味わえるようグループ活動を取り入れた内容を実施する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	音楽あそびⅠ		大石 立子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①基礎的な楽典を学び、楽譜を読めるようにする。			
②基本的なピアノ奏法を身につけ、童謡を弾き歌い出来るようにする。			
③多くの童謡を学び、保育現場で活用出来るようにする。			
【講義概要】			
子供達と楽しく音楽活動を行うために必要な基礎的な楽典の講義と実技（弾き歌い）の個人指導を中心に行う。保育現場で使用頻度の高い季節の歌・生活の歌のレパートリーを身に付けることを目標とする。また人前で演奏することに慣れるために授業内発表を各月毎に実施。学期のまとめとして楽典の筆記試験及び実技試験を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション	16	レパートリー：秋の歌①
2	レパートリー：春の歌① 楽典①	17	レパートリー：秋の歌②
3	第1回授業内発表	18	手遊びの歌①
4	レパートリー：春の歌② 楽典②	19	手遊びの歌②
5	レパートリー：春の歌③ 楽典③	20	手遊びの歌③
6	第2回授業内発表②	21	第3回授業内発表
7	レパートリー：夏の歌① 楽典④	22	レパートリー：冬の歌①
8	レパートリー：夏の歌② 楽典⑤	23	レパートリー：冬の歌②
9	レパートリー：夏の歌③ 楽典⑥	24	生活の歌①
10	レパートリーの確認	25	第4回授業内発表
11	レパートリーの確認	26	生活の歌②
12	まとめ（楽典／実技）	27	まとめ（楽典／実技）
13	童謡が子供たちに与える影響（レポート）	28	1年間の楽典まとめ課題（プリント提出）
14	歌詞の意味を調べよう（レポート）	29	運指練習曲課題（動画提出）
15	運指練習曲課題（動画提出）	30	生活の歌や手遊び歌を用いた模擬保育（動画提出）
【成績評価方法】			
実技試験、授業内の取り組みと授業内発表、筆記試験、レポート課題、動画提出を総合的に成績評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
全体講義（楽典や歌唱）と個人指導（ピアノ弾き歌い）を中心に行う。 各々の音楽経験を考慮し、各自の進度に合わせた指導を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（必修）	外国語		エマ
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1）言語の基礎的な内容を知る。 2）多文化共生教育：海外、日本の中の外国、また国だけでなく自分と異なるものを異文化と捉え、ハードルを低くして、多文化の環境に慣れていく。 3）地球市民学習：日本に暮らす外国籍市民の母国の背景や日本との関係を知る。 4）グローバルネットワーク：Y M C Aの世界的ネットワークを活用して海外の事情に触れる。 5）コミュニケーション：対人（児童）関係において基礎となるコミュニケーションである傾聴、感情のコントロール、アサーティブな表現方法などについて知る。			
【講義概要】			
コミュニケーションの手段としての外国語を学ぶことに意欲的に取り組めるようになるために、日本と世界のつながりをさまざまな視点から学び、人権や平等、共生という現代的なテーマを考えることを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション	16	後期オリエンテーション
2	英語①	17	実践英語①
3	英語②	18	実践英語②
4	英語③	19	実践英語③
5	英語④	20	実践英語④
6	英語⑤	21	実践英語⑤
7	英語⑥	22	実践英語⑥
8	英語⑦	23	実践英語⑦
9	英語⑧	24	実践英語⑧
10	英語⑨	25	実践英語⑨
11	英語⑩	26	実践英語⑩
12	英語⑪	27	実践英語⑪
13	英語⑫	28	実践英語⑫
14	英語⑬	29	実践英語⑬
15	振り返りとまとめ	30	振り返りとまとめ
【成績評価方法】			
①授業内課題（50点）②授業への参加、授業態度（50点）			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業の特徴：ワークショップやディスカッションを多用します。自分で主体的に学習を進められるようになることを目指します。 教員紹介：現地での生活経験やYMCA等の国際的な活動団体での実務経験を活かしつつ、参加型学習を目指します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・通年（前期）	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	造形あそびⅠ		塩川 岳
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①あそびと造形活動を通して「上手・下手」という価値にとらわれず、個々の感性や資質を尊重し、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。			
②基礎的な道具の使い方や素材の特性を知り、保育現場で活用するための素地を学ぶ。			
③鑑賞を通して他者の表現を認め、自らの感想を自らの言葉で表明する習慣をつける			
【講義概要】			
保育現場で扱う事が多い道具・素材の基礎的な知識や特性について学び、作品制作、グループディスカッション、鑑賞の時間を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションについて考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	幼児の絵について(講義+演習)		
3	クレヨン・色鉛筆を素材とした活動・鑑賞		
4	絵具を素材とした活動		
5	絵具を素材とした活動・鑑賞		
6	紙を素材とした活動		
7	紙を素材とした活動・鑑賞		
8	紙を素材とした活動		
9	紙を素材とした活動・鑑賞		
10	身辺材を素材とした活動		
11	身辺材を素材とした活動・鑑賞		
12	身辺材を素材とした活動		
13	身辺材を素材とした活動		
14	身辺材を素材とした活動・鑑賞		
15	前期のふりかえり・まとめ		
【成績評価方法】			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・通年（後期）	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	造形あそびⅠ		塩川 岳
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①あそびと造形活動を通して「上手・下手」という価値にとらわれず、個々の感性や資質を尊重し、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。			
②基礎的な道具の使い方や素材の特性を知り、保育現場で活用するための素地を学ぶ。			
③鑑賞を通して他者の表現を認め、自らの感想を自らの言葉で表明する習慣をつける。			
【講義概要】			
保育現場で扱うことが多い道具・素材の基礎的な知識や特性について学び、作品制作、グループディスカッション、鑑賞の時間を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションについて考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	季節と表現		
2	季節と表現		
3	季節と表現・鑑賞		
4	身辺材を利用した造形あそび		
5	身辺材を利用した造形あそび・鑑賞		
6	グループによる造形表現（1）		
7	グループによる造形表現（2）		
8	グループによる造形表現（3）		
9	グループによる造形表現（4）		
10	グループによる造形表現（5）鑑賞		
11	ねんどを素材とした活動		
12	ねんどを素材とした活動		
13	ねんどを素材とした活動		
14	ねんどを素材とした活動・鑑賞		
15	後期のふりかえり・まとめ		
【成績評価方法】			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	乳児保育Ⅰ		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①乳児保育の意義・目的と役割等について理解する。			
②多様な保育の場、および現代における乳児保育の現状と課題について理解する。			
③3歳未満児の発育・発達過程を踏まえ、乳児保育の基本を理解する。			
④乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や関係機関との連携について理解する。			
※「乳児保育」とは3歳未満児を対象とした保育を示す。			
【講義概要】			
3歳未満児を対象として実施する乳児保育の基本理念や役割等について学ぶとともに、乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の発育・発達の特徴について学び、ふさわしい生活や遊び、保育者の援助について学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション（講義内容について）		
2	乳児保育の意義と役割		
3	乳児保育の歴史と現状		
4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と配慮		
5	6ヶ月未満児の発達過程からみる保育内容①		
6	6ヶ月未満児の発達過程からみる保育内容②		
7	6ヶ月～1歳児の発達過程からみる保育内容①		
8	6ヶ月～1歳児の発達過程からみる保育内容②		
9	1～2歳児の発達過程からみる保育内容①		
10	1～2歳児の発達過程からみる保育内容②		
11	2～3歳児の発達過程からみる保育内容①		
12	2～3歳児の発達過程からみる保育内容②		
13	乳児保育における行事と文化		
14	乳児保育における環境構成		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、小レポートの提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
乳児保育の対象となる3歳未満児の発育・発達の特性を踏まえ、援助の仕方や一人ひとりのこどもを尊重し、あたたかく丁寧に関わる大切さについて、実践を交えながら考え合う。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容総論		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育所保育指針を理解する。			
②保育所保育指針を理解し、個々のこども理解を深める視点を養う。			
③保育現場における保育者の役割について理解を深める。			
【講義概要】			
保育所保育指針に基づき、保育内容を総合的にとらえる視点を養う。また、5領域のとらえ方、こども理解の視点、保育者の役割や配慮など、保育を行う上での基本的な考え方について理解する。こどもの生活と遊びが、乳幼児期に経験する上でふさわしいものとなるような保育内容を展開する重要性を学んでいく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション（講義内容について）		
2	保育の基本と保育内容①		
3	保育の基本と保育内容②		
4	保育所保育指針からみる保育内容①		
5	保育所保育指針からみる保育内容②		
6	保育所保育指針からみる保育内容③		
7	保育所保育指針からみる保育内容④		
8	保育所保育指針からみる保育内容⑤		
9	保育所保育指針からみる保育内容⑥		
10	乳幼児期における学びとしての遊び①		
11	乳幼児期における学びとしての遊び②		
12	保育の多様な展開（長時間保育・配慮を要するこどもへの保育・保育における多文化共生）		
13	連携や接続を踏まえた保育（家庭・地域・小学校など）		
14	保育の計画と実践・評価と記録		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、小レポートの提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
こどもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方について学ぶ。こどもが遊びを通してさまざまなことを学んでいくこと、またこどもの生活と遊びを支える保育者の役割について考え合い、自らの学びを深めていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（言葉）Ⅰ		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①領域「言葉」のねらいと内容について理解する。			
②乳幼児期の言葉の発達過程について理解する。			
③こどもの言葉の育ちを支える保育のあり方や援助について理解する。			
【講義概要】			
こどもはどのように言葉を獲得していくのか、またこどもが楽しみながら言葉を豊かにしていけるような保育内容や援助方法について学んでいく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション（講義内容について）		
2	保育における領域「言葉」		
3	乳幼児期の言葉の発達①		
4	乳幼児期の言葉の発達②		
5	言葉の楽しさ・美しさ		
6	こどもの言葉を育む文化財①		
7	こどもの言葉を育む文化財②		
8	こどもの言葉を育む文化財③		
9	言葉の育ちを支える保育実践①		
10	言葉の育ちを支える保育実践②		
11	言葉の育ちを支える保育実践③		
12	領域「言葉」における保育者の役割		
13	演習（課題）		
14	演習（課題）		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、小レポートの提出・課題の発表(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
こどもの言葉の獲得・発達を支える保育の重要性について学んでいく。こどもたちが感じる言葉の楽しさや伝え合うことの喜びに共感できるよう、保育現場での実践例を体験しながら、学びを深めていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（環境）Ⅰ		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①領域「環境」のねらいと内容について理解する。 ②環境を通して行う保育の重要性について理解する。 ③こどもの育ちを支える環境構成のあり方や保育者の援助について理解する。			
【講義概要】			
こどもの周囲をとりまく「環境」について理解し、さまざまな「環境」とのかかわり、「環境」を通してこどもの育ちを支える保育内容や援助方法について学んでいく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション（講義内容について）		
2	保育における領域「環境」		
3	こどもの生活と「環境」		
4	こどもの発達と「環境」①		
5	こどもの発達と「環境」②		
6	ものとのかかわりと遊び		
7	自然環境とのかかわりと遊び		
8	数や図形、文字とのかかわりと遊び		
9	行事や文化とのかかわりと遊び		
10	地域環境とのかかわり		
11	「環境」としての保育者の役割		
12	演習（課題）		
13	演習（課題）		
14	演習（課題）		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、小レポート・課題の提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
保育における「環境」とは何か、また「環境を通して行う保育」の重要性について学んでいく。こどもたちが出会うさまざまな「環境」について、保育現場での実践例を体験しながら、学びを深めていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（表現）Ⅰ		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
保育における子どもの「表現」をどのように受け止め、理解していくのか。また、子どもの豊かな感性を育てていくには、どのような援助指導が必要なのかを考える。さらに、自分の五感の可能性を感じ取り、自己の表現力を高めていけるよう実践的な表現活動を通して学ぶことを目標とする。			
【講義概要】			
保育内容演習（表現）Ⅰについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 1.領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2.子どもの発達と表現について理解する。 3.様々な表現活動を通して、子どもの豊かな感性を育む援助方法を学ぶ。 4.グループ演習を通して協調性を身に付け、また様々な表現方法に触れる。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	保育・幼児教育における領域「表現」の位置付け		
3	乳幼児期の「表現」の発達について		
4	教材研究①（ブックカバー制作）		
5	教材研究②（紙）		
6	教材研究③（クレヨン・絵の具）		
7	教材研究④（粘土）		
8	教材研究⑤（自然）		
9	教材研究⑥（おもちゃ制作）		
10	グループ演習①（壁面制作）		
11	グループ演習②（壁面制作）		
12	グループ演習③（壁面制作）		
13	グループ演習④（壁面制作）		
14	領域「表現」における今日の課題		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
①授業への参加・意欲（50点）②ノート内容・レポート課題（50点）≪最終授業時に回収する≫の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
色々な教材に触れながら様々な表現活動を体験し、子どもたちの豊かな感性を育めるような援助方法を学べるよう、実践演習形式で授業を展開する。 担当教員は、おもちゃインストラクターの資格を有し、また幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（人間関係）Ⅰ		駿河 幸子・野村 卓哉
【授業の到達目標・およびテーマ】			
幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、乳幼児期に育てたい人間関係とは何かを、子どもの発達段階に沿ったかわりから考える。また、現代社会において、豊かな人間関係を育むべき保育者としての役割とはどのようなことが、広い視野を持って考えることを目標とする。			
【講義概要】			
保育内容演習（人間関係）Ⅰについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 ①領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。②乳幼児期の人とかかわりの発達について理解する。 ③豊かな人とかかわりを育むための保育内容や、保育者の援助について理解する。④現代社会における人とかかわりの課題と保育者としての役割を検討する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション。自己と他己分析「自分と他者を知る」		
2	他人人の中の自分。自分軸を明確にする		
3	保育の基本と領域「人間関係」①		
4	保育の基本と領域「人間関係」②		
5	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取り扱い		
6	0・1・2歳児の保育所における人との関わりの発達と保育者の援助		
7	3・4・5歳児の保育所における人との関わりの発達と保育者の援助		
8	遊びのなかの人とかかわり		
9	生活を通して育つ人とかかわり		
10	個と集団の育ち		
11	人との関わりを見る視点		
12	グループワークを通して集団での遊びを考える①		
13	グループワークを通して集団での遊びを考える②		
14	現代の子どもを取り巻く環境と領域「人間関係」		
15	まとめ（学びの振り返り）		
【成績評価方法】			
①レポート（50点）②授業への参加（30点）③授業での態度・提出物（20点）の合計100点として、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
学生自身が、「自分を知り、認める」ことから他者の存在についても気付けるようにする。その上で、乳幼児期の子どもを取り巻く環境や発達特性を理解し、保育者として適切な援助方法を考えられるよう、保育現場でのエピソードや記録、実践を通して保育者の専門性を培っていく。担当教員は、保育士としての実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭支援の心理学		荒木 光
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 生涯発達に関する心理学の観点に基づき、初期経験の重要性、各ライフステージの発達の特徴と課題を説明できる。			
2. 家族・家庭の意義や機能、親子関係・家族関係を発達の観点で説明できる。			
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を説明できる。			
4. 子どもの精神保健とその課題について説明できる。			
【講義概要】			
子ども家庭支援の実践に必要な心理学の基礎知識（生涯発達の心理学に基づく初期経験の重要性、家族・家庭の理解、子育て家庭をめぐる現状と課題、心の健康を含む子どもの精神保健）について、具体的に理解を深めます。			
回	授業計画および学習の内容		
1	生涯発達とは何か		
2	生涯発達①（乳児期）		
3	生涯発達②（幼児期）		
4	生涯発達③（学童期前期）		
5	生涯発達④（学童期後期）		
6	生涯発達⑤（青年期）		
7	生涯発達⑥（成人期）		
8	生涯発達⑦（老年期）		
9	家族・家庭の理解①（家族・家庭の意義と機能）		
10	家族・家庭の理解②（親子関係・家族関係の理解）		
11	家族・家庭の理解③（子育て経験と親としての育ち）		
12	子育て家庭に関する現状と課題①（ライフコースと仕事・子育て）		
13	子育て家庭に関する現状と課題②（多様な家庭とその理解）□		
14	子どもの精神保健とその課題①（生活・生育環境とその影響）		
15	子どもの精神保健とその課題②（子どもの心の健康に関わる問題）		
【成績評価方法】			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。			
担当教員は、幼児から成人の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			
指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	障害児保育		藤田 美葉
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 障がい児保育の現状と課題、障がい児保育を支える理念について説明できる。 2. 主な障がいに関する状態や特性について説明できる。 3. 主な障がいに関する具体的な援助方法について説明できる。 4. 家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明できる。			
【講義概要】			
障がい児保育の現状と課題、障がい児保育の歴史やインクルージョンの理念を学びます。様々な障がいとその特性を知り、事例を通して心身の発達に応じた具体的な援助や配慮について理解を深めます。また、障がい児保育における発達支援、家庭支援や関係機関との連携の重要性について学びます。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス・障がい児保育の概要		
2	発達と障がい① 脳の発達と構造 等		
3	発達と障がい② 感覚統合の発達 等		
4	発達と障がい③ 視覚・聴覚障がい、肢体不自由児、知的障がいの理解と援助		
5	発達と障がい④ 発達障がい・重症心身障がい児・医療的ケア児の理解と援助		
6	障がい児及び特別な配慮を要する子どもの保育の実際① 指導計画及び個別の支援計画		
7	障がい児及び特別な配慮を要する子どもの保育の実際② 指導計画及び個別の支援計画		
8	障がい児及び特別な配慮を要する子どもの保育の実際③ 発達を促す生活や遊びの環境 等		
9	保護者や自治体・関係機関との連携		
10	障がい児・その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題		
11	障がい児支援制度の理解と実践：フィールドワーク（児童発達支援） ※日時未定		
12	障がい児支援制度の理解と実践：フィールドワーク（児童発達支援） ※日時未定		
13	レポート作成		
14	障がい児保育のまとめ①		
15	障がい児保育のまとめ②		
【成績評価方法】			
①定期試験（60点） ②授業への参加・意欲（30点） ③小レポート（10点） の合計100点として成績評価を行います			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義に加えて個人・グループワークを行うことにより、主体的に学びを深められるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小レポートを課します。担当教員は、実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	実習指導Ⅰ－1		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育実習に必要な資質・能力の基盤を築く。 ②保育実習に必要な専門性を養う。 ③施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。			
【講義概要】			
保育士資格を取得するために必要な保育実習に向かう前に、学びを深めるための科目となる。保育実習の意義や目的を理解し、保育士としての職務内容と職業理解、子どもの最善の利益について、保育の実際に即して学んでいく。実習日誌の意義や目的、書き方を学び、実習に臨めるようにする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	自分をみつめる①		
2	自分をみつめる②		
3	保育の本質・目的の理解と実習		
4	子どもの理解と実習		
5	保育内容・方法の理解と実習①		
6	保育内容・方法の理解と実習②		
7	保育技能と実習①		
8	社会人としての基本・目的		
9	実習における倫理・守秘義務・個人情報		
10	個人調査票と実習計画の作成		
11	実習日誌①		
12	実習日誌②		
13	部分実習		
14	実習準備（実習生としての心構え・マナー）		
15	実習ふりかえり及びお礼作成		
【成績評価方法】			
提出課題・制作物（60点）、②授業への参加（30点）、③授業での態度（10点）の合計100点として、成績評価を行う。提出課題・制作物については、締め切りを守ること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
既習科目で習得した知識・技能を活かしつつ、保育実習に向かう前に必要な子ども理解・実習日誌の書き方・部分実習指導案の書き方を学んでいく。担当教員は保育園での実務経験に基づいて授業を展開する			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どものスポーツ医学（子どもの保健）		湖東 祐貴
【授業の到達目標・およびテーマ】			
スポーツ活動の中で起こる怪我は部位、重症度など多種多様である。様々な怪我について学ぶことで実際に怪我が発生した際に、正しく怪我を認識することができるようになることを目標とする。			
【講義概要】			
スポーツ活動と怪我は切っても切れない関係にある。様々な怪我の概要について学び、怪我の予防や対応について実践していく一助とする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	スポーツ外傷の特徴		
3	重篤なスポーツ外傷①		
4	重篤なスポーツ外傷②		
5	スポーツ外傷・障害(上肢)①		
6	スポーツ外傷・障害(上肢)②		
7	スポーツ外傷・障害(体幹)		
8	スポーツ外傷・障害(下肢)①		
9	スポーツ外傷・障害(下肢)②		
10	様々なスポーツ外傷・障害		
11	スポーツ外傷と年齢差・性差		
12	筆記試験		
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
筆記試験、レポート課題、出席状況を総合的に判断する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義中に内容のノートをとることを強く推奨する。 担当教員は、日本チアリーディング協会主催の国内・国際大会での救護活動の経験があり、関東チアリーディング連盟の医療部会委員を担当している。それらの実務経験をもとに講義を実施する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	スポーツ栄養学Ⅰ（子どもの食と栄養）		迎　しのぶ
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1.バランスの良い食事について理解し、自身の食事を振り返って考えることができるようになる。 2.アスリートや成長期の子どもなど、ライフステージに合わせて配慮すべき栄養について理解する。			
【講義概要】			
アスリートはパフォーマンスの向上を目的に、競技の特性あるいは試合や練習といったような時期に合わせたエネルギー、栄養素を摂取する必要がある。なぜその栄養が必要なのか栄養素の働きを学び、何をどのようなタイミングでどのくらい摂れば良いのか、基本となる考え方を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	栄養学の意義		
2	バランスの良い食事とは、咀嚼と運動		
3	栄養素の消化と吸収		
4	食品成分表の使い方と活用		
5	身体組成、エネルギー代謝		
6	五大栄養素　炭水化物(糖質・食物繊維)		
7	五大栄養素　たんぱく質		
8	五大栄養素　脂質		
9	五大栄養素　ビタミン・ミネラル		
10	食事摂取基準、水分、補食		
11	ライフステージごとと該栄養　ジュニア・ヤング		
12	献立作成		
13	まとめ		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
①授業終了時に課す質問への回答(30点)、②定期試験(30点)、③演習(20点)、④ワークブック(20点)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
テキスト：2026オールガイド食品成分表(実教出版)　参考図書：健康運動実践指導者養成テキスト(健康・体力づくり事業財団)、Reference Book(日本スポーツ協会)、NEW ERA 子どもの食生活(ななみ書房) 授業は講義形式を基本とするが、食品成分表を使って栄養価を計算したり、献立を作成するなどの演習を取り入れることで、自身の食事にすぐに役立つ知識を身につける。担当教員はスポーツクラブ、保健福祉センターなどでの実務経験に基づき授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	フィットネスデザイン（コンピューターⅡ）		西脇 怜奈
【授業の到達目標・およびテーマ】			
仕事を遂行するうえにおいては、必ず「考える」というプロセスを経る。そこで課題研究では、この「考える」ことをテーマに各自が興味・関心のあるテーマを設定し、情報の収集、収集した資料の整理・分析、そしてまとめまでを研究レポートとして作成する。同時に、情報収集の方法や分析、資料の読み方、物事の考え方を広くそして深く考究していく場とする。			
【講義概要】			
レポート作成にあたり以下の手順で学習を進めていく			
1. 興味があるテーマに基づいて資料の収集、整理や分析を行う 2. 収集した資料を研究レポートにまとめる			
3. 研究レポートに基づき新たな知見を発表する			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	情報収集と整理・分析①		
3	情報収集と整理・分析②		
4	問題発見と解決方法①		
5	問題発見と解決方法②		
6	文章の書き方①		
7	文章の書き方②		
8	レポート作成方法①		
9	レポート作成方法②		
10	プレゼンテーション方法①		
11	プレゼンテーション方法②		
12	まとめ①		
13	まとめ②		
14	実践演習Ⅰ		
15	実践演習Ⅱ		
【成績評価方法】			
①研究レポート（レポート）80点、②出席状況（20点）で評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
オリジナルのテキストを用いて授業を行う。収集した資料をいかにまとめるかとともに活用できるかがポイントである。			
レポート作成にあたっては前期のコンピュータの授業で学んだことを生かしてほしい。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
社会体育専門課程	2026年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	発育発達（子どもの発育と発達）		藤田 倫子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
ヒトの一生における発育発達についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢においての発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、不活動とは区別されている座位行動と健康関連指標との関係を理解し、その抑制の重要性を理解する。			
【講義概要】			
成長し、成熟に達するまでの身体の変化に関する現象の把握と、身体発達という現象を規定あるいは関与する要因や条件を把握する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育者・指導者自身の健康（理論）・オリエンテーション		
2	青年期以降の運動1（実技）		
3	青年期以降の運動2（実技）		
4	青年期以降の健康（理論）		
5	乳幼児期の健康と運動遊び1（実技）		
6	乳幼児期の健康と運動遊び2（実技）		
7	人類学からみた発育発達・乳幼児期の発育発達（理論）		
8	乳幼児の運動発達（理論）		
9	小学生の運動と健康1（実技）		
10	小学生の運動と健康2（実技）		
11	小中学生の発育発達と運動発達（理論）		
12	小中学生の発育発達と運動発達（理論）		
13	実践演習Ⅰ		
14	実践演習Ⅱ		
15	実践演習の振り返り		
【成績評価方法】			
筆記試験もしくはレポート（50%）、授業へ取り組む姿勢（50%）で評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と演習形式で行う。「発育」は、身体面、「発達」は機能面の成長を表します。子どもの発育発達を両面から理解し、運動が果たす役割について学ぶ。			
【受講上の留意点】			
実技では、けがの可能性を考慮し、ハザードとなる要因はできる限り取り除く。次の①～③について、理解し準備すること。			
①体に合ったサイズの運動着と靴（体育館シューズ）を着用すること。			
②アクセサリや腕時計、スマートフォン等、けがを誘発する要因となるものは身に付けないこと。			
③他の受講生に危険が及ぶ可能性のある服装や爪（長い爪、ネイルアート含む）等での受講はしない。			
授業中のスマートフォンの使用については、教員の指示に従うこととする。授業中の不正使用については、「授業へ取り組む姿勢」が低いものとみなす。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	教育原理		押切 道子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①教育学の基礎的な理念や知識を習得する。			
②「教育とは何か」、「教育者とは何か」、「なぜ保育者を目指すのか」について探求し、現時点での保育観を見出す。			
③昨今の社会問題と教育及び子どもについて、話し合いの時間をもち、保育者として社会に貢献することの意義について考える。			
【講義概要】			
保育・児童福祉専門職として、働く上で、持っているべき知識、海外の教育から学ぶ姿勢、社会の中での保育分野について理解を深めるため、本講義では、発表や資料、事例から学び、現時点での子ども観・教育観を整理する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション（講義内容について等）		
2	教育の変遷（西洋教育思想①）		
3	教育の変遷（西洋教育思想②）		
4	教育の変遷（西洋教育思想③）		
5	海外の子どもたち①		
6	海外の子どもたち②		
7	教育の変遷（日本の教育思想①）		
8	教育の変遷（日本の教育思想②）		
9	教育に関する法制度①		
10	教育に関する法制度②		
11	教育の問題・課題①		
12	教育の問題・課題②		
13	教育の問題・課題③		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践をつなぐ）		
【成績評価方法】			
①試験60点、②発表内容・意欲30点、③ノート（試験日に回収）10点の合計100点として、成績評価を行う。 ＊ノートは見開きA3の物を用意し、発表の際に配布する資料はB5で準備をする。＊遅刻は欠席とみなし、遅延証明書も認めない。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、授業参加者1人一回発表をする。また、他者理解として意見を交わす対話方式も取り入れ、学びを深める。担当教員は、現場経験に基づいて、授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育者論		今井 世都
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育者の具体的な役割と求められる倫理観について理解する。			
②保育士の制度的な位置づけを理解する。			
③保育士の専門性や基礎的な資質能力について理解し説明できる。			
④保育者の連携と他職種との協働について理解する。			
⑤保育者としての学びの継続性とキャリア形成について理解する。			
【講義概要】			
子どもが求めている保育者と現在の日本の社会が求めている保育を考え、役割を具体的に学び理解する。その上で自分の保育者像を描き目指していく。また、保育者の専門性向上のための研修の意味と制度的な位置づけを理解し、保育職の職業的特徴について学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション：「保育者になる」ということ		
2	保育者の役割について：子どもの思いや育ちを理解する仕事		
3	保育者の倫理について：保育士の専門的倫理と法律		
4	保育士の制度的位置づけについて		
5	保育士の専門性について①：資質・能力とは		
6	保育士の専門性について②：養護と教育が一体となった教育とは		
7	保護者や家庭と一緒に歩む仕事①：保護者への支援		
8	保護者や家庭と一緒に歩む仕事②：保護者懇談会・個人面談や相談		
9	学び合う保育者となるために①：保育者の専門性と省察		
10	学び合う保育者となるために②：チーム保育の重要性		
11	「保育者に求めること」保育園の園長から学ぶ		
12	保育者の専門性の発達について		
13	保育士のキャリア形成について		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践を繋ぐ）		
【成績評価方法】			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容（授業時に回収）10点の合計100点として成績評価を行う			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。			
担当教員は、幼稚園・保育園・こども園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	社会的養護Ⅱ		都留 和光
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。			
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。			
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。			
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。			
【講義概要】			
現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探求する。「自己覚知」のための演習を多く用いる。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、子どもの権利擁護		
2	社会的養護における子どもの理解		
3	社会的養護の内容 ①日常生活支援		
4	社会的養護の内容 ②心理的支援		
5	社会的養護の内容 ③自立支援		
6	施設養護の生活特性および実際 ①乳児院等		
7	施設養護の生活特性および実際 ②児童養護施設		
8	家庭養護の生活特性および実際		
9	アセスメントと個別支援計画の作成		
10	記録および自己評価		
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践		
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践		
13	社会的養護におけるソーシャルワークと家庭支援（知識・技術とその応用）		
14	まとめ①（今後の社会的養護の課題と展望Ⅰ）		
15	まとめ②（今後の社会的養護の課題と展望Ⅱ） ＜上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する＞		
【成績評価方法】			
①試験70％、②授業への参加・意欲30％として成績評価を行う			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講師は、社会的養護当事者であり、児童養護施設、乳児院の職員、施設長を経験してきた中で、社会的養護の具体について学んでいく機会とする。対象児童は、被虐待経験、障害、生活困窮、家族問題等が背景にあります。社会的養護とは、家庭が抱える所になることが困難な子どもを社会的に養育する取り組みです。その子どもへの支援の方法、制度等を解説しながら、子どもの虐待、社会的孤立、障害、貧困等の問題と、支援の取り組みを事例も活用しながら授業を進めていきたいと思います。また、自己覚知(かかわる大人の自己分析や評価・理解など)として、自身のライフラインを作成する等演習を行いながら進める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	乳児保育Ⅱ		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた関わり方の基本を理解する。			
②養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の生活や遊びについて知り、その保育内容を理解する。			
③乳児保育における環境構成、計画の重要性について理解する。			
【講義概要】			
乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育の基礎的理論や内容を踏まえ、さらに具体的な乳児の生活や遊びについて、実践を通して学んでいく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション（講義内容について）		
2	乳児保育における基本的な援助や関わり①		
3	乳児保育における基本的な援助や関わり②		
4	6ヶ月未満児の発達過程からみる保育内容と配慮		
5	6ヶ月～1歳児の発達過程からみる保育内容と配慮		
6	1～2歳児の発達過程からみる保育内容と配慮		
7	2～3歳児の発達過程からみる保育内容と配慮		
8	乳児の生活と遊び①		
9	乳児の生活と遊び②		
10	乳児の生活と遊び③		
11	個々のこどもの発達を促す生活と遊びの環境構成		
12	乳児保育における観察と記録の重要性		
13	個々のこどもの発達を促す生活と遊びの計画①		
14	個々のこどもの発達を促す生活と遊びの計画②		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、小レポート・課題の提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
乳児保育の対象となる3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえ、一人ひとりのこどもを尊重し、あたたかく丁寧に関わる大切さについて考え合う。また、乳児の遊びや環境構成、計画の作成などを通して、体験的に学びを深め、保育現場での実践へと結び付くようにしていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子育て支援		笹井 美佐・荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①「子どもの育ち」につながる子育て支援のあり方とその意義について理解する。			
②子育て支援における保育者の役割と職務内容を把握する。			
③さまざまな人々と連携した支援方法の基礎を習得する。			
【講義概要】			
①多様な子育て家庭が存在する中で、こどもが健やかに成長するために必要な子育て支援について学ぶ。			
②保育者に期待されているそれぞれの家庭に沿った具体的な支援方法について理解を深めていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、子育て支援とは		
2	子育て支援の意義		
3	子育て支援の基本的価値・倫理		
4	子育て支援の基本的姿勢		
5	子育て支援の基本的技術		
6	園内・園外との連携と社会資源		
7	記録・評価・研修		
8	日常会話を活用した子育て支援		
9	文書を活用した子育て支援		
10	行事などを活用した子育て支援		
11	環境を活用した子育て支援		
12	地域子育て支援拠点における支援		
13	入所施設における子育て支援		
14	通所施設における子育て支援		
15	まとめと今後の課題		
【成績評価方法】			
①確認テスト（筆記試験）50点 ②授業への参加・意欲30点 ③ワークシートの提出・内容20点 の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
保育現場で問題となっている事柄や社会問題となっている事柄に対して、保育者が対応していくために必要な知識や技術について具体的事例を通して学んでいく。担当教員は、保育所での実務経験に基づき授業を展開する。 ※授業展開は学習の進捗状況に合わせて柔軟に変更していく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	実習指導Ⅰ－2		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 福祉施設等(保育所以外)実習の意義 目的を説明できる。 2. 施設実習の内容を理解し、自らの課題を述べるができる。実習指導を通して自己覚知を促進する。 3. 実習における倫理・マナーを説明できる。 4. 施設実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明できる。			
【講義概要】			
保育士には、保育所以外の福祉施設や、その他の福祉サービスの現場でも実践可能な知識、技術の習得が求められます。この授業での学びと実習での学びを接合し、保育の学びを深めることを目指します。【授業計画は予定であり、学習の進捗状況に合わせて変更します】			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	施設実習の意義目的		
3	各施設の目的や支援内容		
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解		
5	福祉施設の実際①		
6	福祉施設の実際②		
7	福祉施設の実際③		
8	実習先に関する理解		
9	個人票と実習計画の作成		
10	施設実習の記録について①(時系列記録)		
11	施設実習の記録について②(保育の学びを深める記録とは)		
12	施設実習の記録について③(日誌を改善する)		
13	実習における倫理について		
14	実習の留意点		
15	保育の学びを深める実習にするための準備		
【成績評価方法】			
①授業への参加意欲(50点) ②レポート課題(50点)の合計100点として成績評価を行います。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習に関する講義に加えて、グループワーク等を行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	発達心理学		荒木 光
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①子どもの発達の基本的な特徴を、年齢ごとの変化や発達領域の視点から説明できる。			
②発達の個人差や環境の影響を考慮し、保育の中で配慮すべき点を挙げられる。			
③発達心理学の基礎知識を活かし、子どもの行動や発達段階を観察し、記録できる。			
【講義概要】			
本授業では、子どもの発達を年齢ごとの変化や発達領域の視点から学び、保育実践に必要な基礎知識を身につけます。発達の個人差や環境の影響を理解し、子どもの行動を適切に観察・記録する力を養います。			
回	授業計画および学習の内容		
1	発達心理学とは？		
2	乳児期の発達		
3	愛着と情緒の発達		
4	幼児期の発達		
5	遊びと発達		
6	言葉の発達とコミュニケーション		
7	社会性の発達		
8	児童期の発達		
9	発達障害と支援		
10	家庭環境と発達（養育環境の影響）		
11	保育の中での発達支援（個別対応の工夫）		
12	思春期への移行（児童期から思春期へ）		
13	発達を支える環境と文化（異文化の影響）		
14	発達を支える様々な視点		
15	発達心理学のまとめと応用		
【成績評価方法】			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。			
担当教員は、幼児の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			
指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		鶴 清忠
【授業の到達目標・およびテーマ】			
児童館及び放課後児童クラブ（「学童クラブ」以下、同じ）の日々の活動の流れ、行事の企画、児童ソーシャルワークをベースとした利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館及び放課後児童クラブにおける児童厚生員と放課後児童指導員の業務の実態を把握する。			
【講義概要】			
・児童館及び放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ ・年間を通じた活動の流れ、行事等の企画立案方法 ・小学生の仲間づくり、子育て支援活動、児童館及び放課後児童クラブの基本的活動の実施方法、児童厚生員及び放課後児童支援員の役割 ・体験学習等での行事等の企画運営			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、児童館及び放課後児童クラブ（以下、学童クラブ）とは		
2	児童館及び学童クラブの歴史と現状		
3	ソーシャルワークとは（総論）①		
4	ソーシャルワーク（ケースワーク）②		
5	ソーシャルワーク（グループワーク）③、体験学習に向けて（心得等）		
6	児童館での体験学習① 学童クラブの実態		
7	児童館での体験学習② 児童館運営の実態		
8	体験学習振り返り		
9	児童館・学童クラブと児童虐待、障害のある子ども、配慮を必要とする子どもへの対応		
10	子育て支援（乳幼児支援）の実態		
11	ソーシャルワーク（コミュニティワーク）④、学校・地域・関係機関との連携		
12	子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案、ミニ児童館祭り準備①【演習①】		
13	児童厚生員及び放課後児童支援員の役割と業務		
14	ミニ児童館祭り準備【演習②】		
15	ミニ児童館祭り実施（企画発表）【演習③】		
【成績評価方法】			
①授業への意欲60% ②行事等の企画立案20% ③レポート等提出物20%の合計100点として成績評価を行う			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	造形あそびⅡ		塩川 岳
【授業の到達目標・およびテーマ】			
① 演習を通し、自身の造形表現の経験を豊かにしていくとともに、幼児期の造形への理解を深める。			
② 授業をヒントとし、子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考える。			
【講義概要】			
自然や偶然性など、日常にある現象や出来事などから美しさや面白さを見つけ、感じる心を育てる。			
造形あそびの実践・体験を通して、子どもの自由な「学び」や「気付き」に寄り添う姿勢を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	造形あそびとは何か（講義＋演習）		
3	遊びから見つける（偶然の表現）		
4	遊びから見つける（偶然の表現）		
5	遊びから見つける（光と色）		
6	遊びから見つける（光と色）		
7	遊びから見つける（つなげる）		
8	遊びから見つける（つなげる）		
9	遊びから見つける（組み合わせる）		
10	遊びから見つける（組み合わせる）		
11	グループ演習（ディスカッション）		
12	グループ演習（制作）		
13	グループ演習（制作）		
14	グループ演習（プレゼンテーション・デモンストレーション）		
15	ふりかえり・まとめ		
【成績評価方法】			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	音楽あそびII		大石 立子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①楽譜に書かれている音やリズムを理解出来るようにする。			
②保育現場で使用頻度の高い小楽器の正しい奏法を学び、子供の年齢にあった指導及び楽曲作りが出来るようにする。			
③身体表現（リトミック）を実践し、保育現場で活かせるようにする。			
【講義概要】			
器楽合奏の正しい楽器の知識や奏法を学び、実際に演奏しながら子供達への指導法や年齢に合わせた楽曲作りができるようにする。またリトミックも実践し、音楽を体で感じる楽しさを習得し、保育現場で活かせるようにする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	楽器の特徴と使い方／リトミック 即時反応①		
3	年齢別に適した合奏指導について／リトミック 即時反応②		
4	年齢別に適したリトミックについて／リトミック 即時反応③		
5	リズム譜の書き方／リトミック 音の高低①		
6	合奏パート作成／リトミック 音の高低②		
7	言葉やリズム遊び／リトミック テンポの変化		
8	拍子について／リトミック 拍と拍子①		
9	リトミックにおけるピアノの効果音／リトミック 拍と拍子②		
10	リトミック音楽劇①「うみとともだち」		
11	リトミック音楽劇②「うみとともだち」		
12	まとめ リトミックを用いた模擬保育		
13	合奏パート譜の作成と提出		
14	音楽発表会の指導案作成と提出		
15	小楽器の演奏の仕方の模擬保育（動画提出）		
【成績評価方法】			
授業への参加・取り組み、授業内試験や筆記小テスト、提出物を総合的に成績評価をする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
子供達と音楽の楽しさを共有出来るよう、器楽合奏やリトミックの指導法や活用法を実践しながら学ぶ。			
授業への意欲的な参加が大切な教科です。毎回動きやすい服装や靴で参加すること。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	実習指導Ⅱ		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育士として必要な資質・能力・技能・技術を習得する。			
②保育者を志す者として必要な専門性を理解し、自らの課題を明確にする。			
③こどもの保育および子育て支援について総合的に理解する。			
④保育の計画・実践・観察・記録および自己評価について理解を深める。			
【講義概要】			
保育現場での実体験を踏まえ、保育実習・保育関連科目で学んだ保育の専門知識や技術、保育者の役割についての理解を深める。保育者を志す者として、自身の課題と向き合いながら、学びを深めることを目指す。			
	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	実習Ⅰー1(保育所)の振り返り		
3	保育所保育士の職務と役割①		
4	保育所保育士の職務と役割②		
5	保育実習の記録について		
6	実習テーマおよび課題の設定		
7	個人票および実習計画の作成		
8	保育指導計画案の立案と実践①		
9	保育指導計画案の立案と実践②		
10	保育指導計画案の立案と実践③		
11	保育指導計画案の立案と実践④		
12	個別支援計画等の作成と実践		
13	保育士における職業倫理		
14	実習の振り返りと今後の課題①		
15	実習の振り返りと今後の課題②		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、課題の提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
保育実践の力をより高めていけるよう、実習に関する知識・技術の確認、保育の計画や実践を通して、主体的に学びを深め、実習の充実を図る。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	実習指導Ⅲ		荒木 美紗
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育所以外の福祉施設等の役割や機能についてより具体的に理解を深める。			
②施設実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。			
③福祉施設等におけるこどもの最善の利益を最大限に考慮した保育の重要性を理解する。			
④施設実習の計画・実践・観察・記録および自己評価について理解を深める。			
【講義概要】			
保育者を志す者として、保育所以外の福祉施設や、その他の福祉サービスの現場でも実践可能な知識、技術の習得を目指し、自身の課題と向き合いながら、学びを深めていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	施設実習とは		
3	児童館理解①		
4	児童館理解②		
5	福祉施設保育士の職務と役割		
6	実習テーマおよび課題の設定		
7	個人票および実習計画の作成		
8	施設実習の記録について①		
9	施設実習の記録について②		
10	施設実習の記録について③		
11	支援計画の理解と立案①		
12	支援計画の理解と立案②		
13	保育士における職業倫理		
14	実習の振り返りと今後の課題①		
15	実習の振り返りと今後の課題②		
【成績評価方法】			
授業への参加・意欲(50点)、課題の提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
保育所以外の福祉施設や福祉サービスの現場における実習に関する知識・技術の確認、保育の計画や実践を通して主体的に学びを深め、実習の充実を図る。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	学童保育演習		真田 祐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
学童保育(放課後児童クラブ)の必要性と目的・役割、学童保育における育成支援の内容を理解することにより、子どもの健やかな育ちとは何か、今日的に求められている子育て支援とは、学童保育のあるべき姿(求められる姿)についての理解を深めていきたい。			
【講義概要】			
講義およびディスカッションなどを通じて、共働き・一人親家庭の子どもたちの放課後等の生活の場である学童保育の必要性と目的・役割を学び、また、学童保育における育成支援、子どもの健やかな育ちとは何かを深めていく、実際の学童保育の実践（事例）を深めていくことで、学童保育での子どもたちの生活の様子や指導員の仕事を理解し、子どもや保護者にとってどういう学童保育が求められているのかを探索していく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス 学童保育とは何か(1)		
2	学童保育とは何か(2) 子どもにとって保護者にとって		
3	学童保育の現状、制度、歴史		
4	子どもの権利としての学童保育 子どもの権利とは		
5	支援員に求められる子ども観 権利行使の主体としての子ども理解		
6	学童保育における育成支援(1) 生活の場を与えて健やかに育てる		
7	学童保育における育成支援(2) 安心できる生活、主体的な遊びと生活		
8	子育て支援・保護者支援と学童保育の役割		
9	放課後児童支援員の仕事・役割・専門性		
10	学童保育の事例研究(1) 支援員の実践から学ぶ		
11	学童保育の事例研究(2) 支援員の実践から学ぶ		
12	体験学習（都内の学童保育へ）		
13	体験学習報告会		
14	学童保育の可能性と将来像		
15	レポート		
【成績評価方法】			
①レポート提出30点 ②授業への参加・意欲・態度30点 ③リアクションペーパー40点の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義、事例研究、体験学習、ディスカッションを通じて、今日の子どもの育ちや家庭での子育ての現状や課題も深めながら、学童保育のあり方、あるべき姿を考えていく。指導員にはどういった専門性が求められているのかも深めていきたい。学童保育の制度確立、内容づくり、普及、社会的な理解に40年近く関わってきた経験なども踏まえた講義や学生の学びの支援をしていきたい。			
真田 祐（さなだ ゆたか）東京YMCA社会体育・保育専門学校、大妻女子大学及び白梅学園大学で非常勤講師（専門は学童保育研究）。2015年まで全国学童保育連絡協議会の職員（32年間勤務）。全国各地で「放課後児童支援員認定資格研修」の講師を務める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	レクリエーション演習		野村 卓哉
【授業の到達目標・およびテーマ】			
この授業では、レクリエーションの基本的な意義と役割について理解を深めるとともに、保育や教育の現場で実践できる指導方法を習得することを目指します。さらに、子どもの発達段階や環境に応じたレクリエーションプログラムを企画・実施できる力を育て、ふれあいや協働、創造的な活動を通して、保育者としての感性と指導力を高めていきます。			
【講義概要】			
本講義では、レクリエーションの目的や楽しさを体験的に学ぶことでその意義を実感し、保育・教育・福祉の現場で子どもの成長や健康、社会性の発達に貢献できるプログラムを企画・指導する力を養います。また、指導者としての直接的な関わりだけでなく、支援や調整、創造といった多様な役割に対応できる柔軟な実践力を身につけることを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	レクリエーションとは何か（概念・意義・歴史）		
2	レクリエーションの効能と体験（健康・発達・社会性）		
3	指導者の役割と関わり①（小グループ活動を通して）		
4	指導者の役割と関わり②（全体活動を通して）		
5	子どもとレクリエーション①（発達段階に応じた活動）		
6	子どもとレクリエーション②（保育現場での実践例）		
7	実技演習①（ふれあいあそび）		
8	実技演習②（運動あそび・音楽あそび）		
9	実技演習③（身近な素材を使ったあそび）		
10	実技演習④（サーキットあそび）		
11	レクリエーションの種類と展開（日常型・イベント型）		
12	プログラム企画と実践①（対象別プログラム設計）		
13	プログラム企画と実践②（企画のプレゼンテーション）		
14	プログラム実践発表（グループによる演習）		
15	振り返りと自己評価（総括・意見交換・レポート）		
【成績評価方法】			
①実技発表・プログラム実践：30点 ②グループワークの過程と成果：30点 ③学習記録・振り返りシート：20点 ④授業への参加・主体的な取り組み：20点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
演習形式を基本とし、実技体験・指導練習・プログラム作成を行う。学生は個人およびグループでの事前準備や発表を通じて、実践的な指導力を身につける。発表を行わない学生は参加者として活動に関わり、感想や評価を行うことで学びを深める。			
担当教員は、幼児体育の現場経験と研究実績をもち、子どもの健康と発達を支える運動支援を実践している。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	子どもキャンプ演習（子ども野外活動・お泊まり保育演習）		堀 雄二
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①野外活動・お泊まり保育の意義と教育的効果を理解する。②安全で楽しい宿泊プログラムを計画できる。③保護者への説明・資料作成ができる。④グループで実践的な保育活動を構築できる。			
【講義概要】			
スポーツクラブ・学童・保育園・幼稚園における野外活動・お泊まり保育を中心に、子どもの成長を促す宿泊体験の意義、安全管理、プログラム構成、保護者対応について学ぶ。グループで企画・発表を行い、実践的な力を養う。希望者はキャンプ協会資格取得も可能。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション／授業の目的		
2	野外活動・お泊まり保育の意義と必要性		
3	子どもの成長と宿泊体験		
4	保育者の役割と関わり方		
5	お泊まり保育の実事例		
6	グループワーク①		
7	グループワーク②		
8	レクリエーション実践		
9	野外活動の基礎理解（簡易）		
10	安全管理とリスク対応		
11	お泊まり保育の準備		
12	保護者対応と説明方法		
13	プログラム作成		
14	資料・プレゼン作成		
15	発表・まとめ		
【成績評価方法】			
①レポート,発表における評価（80点）,②授業参加への取り組み（20点）の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが,野外活動団体や冒険活動に関する映像なども適宜取り入れる.担当教員は,東京都社会教育事業,専門学校や民間団体のキャンプ指導の経験があり,実務経験をもとに授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育実践演習		村上 剛
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 保育士として必要な専門的知識及び技術、総合的な判断力や倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習や研修を通じた学びに基づき、保育者の役割とは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、研究論文としてまとめて発表する			
【講義概要】			
これまで学んだ授業・研修・実習等を通して、自己の課題や保育者像を探求し、研究論文としてまとめる。その上で、今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法を明確にし、自らの保育実践力を身に付ける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	前期オリエンテーション／文献検索の方法	16	後期オリエンテーション
2	保育の仕事（保育の場で求められる保育実践力とは）	17	論文執筆⑦
3	研究テーマ設定に向けて① 昨年の発表に学ぶ	18	論文執筆⑧
4	研究テーマ設定に向けて② 過去10年間の研究に学ぶ	19	論文執筆⑨
5	研究テーマ設定に向けて③ 同世代他校の研究に学ぶ	20	論文執筆⑩
6	研究テーマ設定に向けて⑤ 分野・方向性を考える	21	論文執筆⑪
7	研究テーマ設定に向けて⑥ 分野・方向性の確定	22	論文執筆⑫
8	研究テーマの確定	23	論文執筆⑬
9	研究方法の検討	24	論文執筆⑭
10	本論執筆①	25	論文執筆⑮
11	本論執筆②	26	論文執筆⑯
12	本論執筆③	27	卒業研究「本文」添削
13	本論執筆④	28	卒業研究「抄録」添削
14	本論執筆⑤	29	研究発表 当日
15	本論執筆⑥	30	研究発表 当日
【成績評価方法】			
①論文提出50点②論文発表50点の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
前半は講義形式、後半はゼミナール形式で学びを深める。各自のテーマに沿って研究を進める。 担当教員およびゼミナール教員は、保育所・幼稚園・児童館等の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・集中	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	体育指導実習		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
運動あそびの指導実習を通して、子どもにスポーツや運動の楽しさを伝え、幅広い指導体験を行う。また、子どもの心身の発達特性に留意しながら、子どもが多様な運動を経験できるよう、保育者としての資質や能力の向上、さらにそのための資格取得を目標とする。			
【講義概要】			
体育指導演習について、以下の3つのテーマをもって行う。 1. 保育現場等における、運動あそびやスポーツのプログラムの実際を把握するとともに、保育者・指導者としての役割や指導法を体験しながら学ぶ。 2. 運動あそびやスポーツプログラムを通して感じた自身の感動体験を子どもたちにも伝えられるようになる。 3. 子どもにとって必要な運動あそびやスポーツとはどのようなものか、現代の子どもの姿から考え、指導計画を立案し実践する			
回	授業計画および学習の内容		
1	1. オリエンテーション（指導計画等）		
2	2. プログラムの趣旨を理解し、対象者の実態を把握する。		
3	3. 指導計画案の作成を行う。		
4	4. スポーツ・運動あそびの指導実習		
5	5. 指導者の役割を理解し、指導法・対象者における動向の把握・施設用具の安全管理などを実践の場を通して学ぶ。		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
①事前準備・取り組み（20点）②実習への参加・意欲（50点）③事後レポート（30点）の計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
保育所・幼稚園等で行っているスポーツ指導や運動あそび、また、民間団体等が開催している親子運動等、実際の現場において指導実習を行う。また、幼児体育指導員の資格取得を目指す。 担当教員は、幼稚園・専門学校や民間団体にてスポーツ/ダンス指導の経験があり、実務経験に基づいて展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭支援論		今井 世都
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①現代の家庭が置かれている状況を理解し、その課題を説明することができる。 ②子どもが育つ家庭の役割を理解する。 ③保育者としての支援の必要性を理解し、具体的に支援を支える知識を習得する。 ④保育者や地域で行われている支援の実態を理解する。 ⑤子ども家庭支援に関する今後の課題を具体的に説明できる。			
【講義概要】			
現代の家庭を取り巻く社会状況を踏まえて子育て家庭の抱える困難を理解し、子どもにとって社会的支援がなぜ必要なのかを学ぶ。また保育士が子育て家庭を支援する時の目的を捉え、実践例をみながら家庭の理解と支援内容、保育者としての基本的な考え方と態度を学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション：子育て支援の背景や必要性について		
2	現代における家族と子育て		
3	子どもの育ちに対する家族・家庭の役割		
4	子どもの育ちにおける家庭支援の必要性		
5	保育の専門性を活かした家庭支援の目的		
6	子ども家庭支援の対象と内容		
7	保育士に求められる基本的態度①相談・支援の方向性		
8	保育士に求められる基本的態度②保護者の気持ちを理解するために		
9	保育所利用家庭への支援		
10	地域の子育て家庭への支援		
11	子育て支援の政策動向		
12	子育て支援の制度		
13	子ども家庭支援に関する課題		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践を繋ぐ）		
【成績評価方法】			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容（授業時に回収）10点の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。 担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの理解と援助		荒木 光
【授業の到達目標・およびテーマ】			
1. 子ども一人ひとりの心身の発達や、学びを把握することの意義について説明できる。			
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するための基本となる考え方を説明できる。			
3. 子どもを理解するための具体的な方法を説明できる。			
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助・態度の基本となる考え方を説明できる。			
【講義概要】			
保育士には、子ども一人ひとりの理解と、複数人の子どもから形成される集団の理解の両方が求められます。その理解に基づき、子どもと信頼関係を築きます。そして、発達を促進する経験を子ども自ら獲得していけるような援助をすることが求められます。本講義では、こうした望ましい援助の基盤である子ども理解について学びを深めます。			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育における子ども理解		
2	「能力を伸ばす」ことだけに囚われない		
3	「子ども中心主義」の裏		
4	保育の二つの目標		
5	子どもの主体性		
6	子どもの二面性①		
7	子どもの二面性②		
8	保育者の視点①		
9	保育者の視点②		
10	個と集団		
11	保育者の対応の二面性		
12	発達の課題に応じた援助		
13	子どもにとっての遊び①		
14	子どもにとっての遊び②		
15	まとめ・ふりかえり		
【成績評価方法】			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。			
担当教員は、幼児の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			
指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの健康と安全		高橋 亮
【授業の到達目標・およびテーマ】			
本科目では、実際の保育現場で必要となる子どもの健康と安全に関する基礎的知識と必要なケアの技能を身につけるための学修を行う。また、子どもの発育・発達状態を理解するとともに、子どもの病気の予防や健康教育、疾病の早期発見、救急救命処置と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶ。			
【講義概要】			
1.子どもの成長発達や生理的機能の観察方法について学修する 2.子どもの健康状態の把握および健康管理について学修する 3.病児や体調不良の子ども、障がいをもつ子どもへの対応と必要な援助を学修する 4.日常生活の養護にかかわる健康教育および安全教育を学修する			
回	授業計画および学習の内容		
1	乳幼児期の発達の評価と健康状態の観察		
2	子どもの身体計測の測定方法		
3	子どものバイタルサインの測定方法		
4	子どもの生活環境における安全および感染予防①（子どもの事故の特徴とその対策）		
5	子どもの生活環境における安全および感染予防②（子どもの予防接種と学校感染症（小児感染症））		
6	救急処置が必要な子どもへの対応①（救命救急処置に関する基礎知識）		
7	救急処置が必要な子どもへの対応②（心肺蘇生法と気道異物除去法）		
8	健康問題が子どもと家族に及ぼす影響①		
9	健康問題が子どもと家族に及ぼす影響②		
10	子どもと家族を取り巻く環境と健康問題①		
11	子どもと家族を取り巻く環境と健康問題②		
12	災害を受けた子どもの健康問題		
13	個別の配慮を必要とする子どもへの対応		
14	保健計画の作成と活用		
15	確認テスト		
【成績評価方法】			
確認テスト（100点）			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義および演習形式を基本とするが、手技についてはDVD視聴なども適宜取り入れて具体的に理解できるように授業を展開する。 担当教員は看護師資格と保育士資格を持ち、また小児病棟での看護師経験もあるので、実務経験に基づいた授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育の計画と評価		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①保育所を理解し、保育所における内的な計画について理解をする。 ②保育計画と指導計画の基本を理解する。 ③発達の連続性を理解し、計画→実践→評価・省察→次の保育に活かすというサイクルを具体的に理解する。			
【講義概要】			
保育所保育指針を基に保育の基本的な考え方や内容に関する事項を捉え、保育の構造を学ぶ。子どもの実態に即した計画を作成し、実践することを目的とする。さらに、実践を振り返り評価し結果を踏まえた改善を次の計画へ反映するまでのサイクル、PDCAサイクルのあり方を身に付け実践につなげることを目的とする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	保育の基本について		
3	保育所の理解		
4	全体的な計画		
5	全体的な計画から指導計画へ		
6	指導計画の作成の基本とその方法		
7	乳児の育ちと指導計画①		
8	乳児の育ちと指導計画②		
9	幼児の育ちと指導計画①		
10	幼児の育ちと指導計画②		
11	保育の実践と評価①		
12	保育の実践と評価②		
13	実践演習①		
14	実践演習②		
15	まとめ		
【成績評価方法】			
①課題60点、 ②発表10点、 ③授業参加・態度30点の合計100点として、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	子どもと言葉		笹井 美佐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①乳幼児の言葉が育つ文化的環境について理解する。②言葉の発達に関わる児童文化財に関する知識を、主体的に学ぶ。 ③児童文化財を行うにあたっての基礎的技術を実践的に習得する。④乳幼児の言葉の発達を理解し、児童文化財の実践を主体的に行っていく。			
【講義概要】			
乳幼児期の言葉の発達を学び、言葉と心の育ちについて実践事例を基に解説していく。また、乳幼児の心の理解をし、保育者としての専門性を習得することを目的とする。その中で、言葉の発達を促す児童文化財の意義を認識し、主体的に実践しながら学びあっていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	言葉とは何か①		
3	言葉とは何か②		
4	言葉を豊かにする環境と児童文化財①		
5	言葉を豊かにする環境と児童文化財②		
6	絵本を選ぶ		
7	絵本の読み聞かせをしてみよう①		
8	絵本の読み聞かせをしてみよう①		
9	紙芝居を選ぶ		
10	紙芝居を演じてみよう		
11	児童文学とは何か		
12	様々な児童文化財に触れ実演しよう①		
13	様々な児童文化財に触れ実演しよう②		
14	様々な児童文化財に触れ実演しよう③		
15	まとめ（保育者はこどもにどう働きかけていくか・保育者の役割）		
【成績評価方法】			
①レポート・提出課題（60点）,②授業への参加（30点）,③授業への態度（10点）の合計100点として、成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
乳幼児期の子どもの発達において、言葉の習得と言葉を使用しながらコミュニケーションをとることは大切なものになっていく。言葉を育む上で、絵本や紙芝居を上手に活用するために、絵本の選び方、読み聞かせを行い、実践していく。また、子どもの豊かな心と言葉を育めるよう、様々な児童文化財に触れ、実践発表をしていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	子どもの造形あそび		塩川 岳
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①造形あそびの実践を通して、その意義と役割を考える。 ②自ら考え工夫して、子どもの自由な「あそび」と「造形」に寄り添い、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。			
【講義概要】			
造形あそびの実践・体験を通して、子どもの自由な「学び」や「気付き」に寄り添う姿勢を身につける。 グループ活動を通してオリジナルの造形あそびを考案し、実践に役立てるスキルを身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	造形あそびの実践例（講義＋演習）		
3	仕組みのある造形あそび（１）		
4	仕組みのある造形あそび		
5	仕組みのある造形あそび		
6	仕組みのある造形あそび 鑑賞		
7	身辺材を使った造形あそび		
8	身辺材を使った造形あそび 鑑賞		
9	仕組みのある造形あそび（２）		
10	仕組みのある造形あそび		
11	仕組みのある造形あそび		
12	仕組みのある造形あそび		
13	仕組みのある造形あそび		
14	仕組みのある造形あそび 鑑賞		
15	ふりかえり・まとめ		
【成績評価方法】			
授業への出席や意欲 40％ 制作や鑑賞活動 40％ 発表やレポートなど 20％			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	運動・表現あそびⅡ		藤田 倫子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①乳幼児期に適した運動遊びを創作し、指導計画を作成する。 ②乳幼児期の運動や遊びの指導、関わりでの配慮事項について理解する。 ③乳幼児期のあそびの指導に必要な、表現力や運動スキルを身につける。			
【講義概要】			
子どもの姿を予見し、スモールステップから積み上げていく遊びの進め方、主体性を引き出す遊びのポイントや環境設営、配慮事項などを反映させた指導案作成と実践を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーションと理論学習（教室）		
2	ふれあい体操の実践（アリーナ）		
3	ふれあい体操の指導計画（教室）		
4	ふれあい体操の指導計画・シナリオ作成（教室）		
5	指導実践（検証）（アリーナ）		
6	リズム体操の創作（アリーナ）		
7	リズム体操の創作（アリーナ）		
8	リズム体操の指導実践（検証）（アリーナ）		
9	自由遊びの遊具と保育者の関わり・遊具作成と指導計画1（教室）		
10	自由遊びの遊具作成と指導計画2（教室）		
11	自由遊びの実践（アリーナ）		
12	まとめ		
13	学外演習1		
14	学外演習2		
15	学外演習の振り返り		
【成績評価方法】			
①授業内で作成する、運動あそびの指導案およびリアクションペーパーの内容80点、 ②授業への参加・意欲20点、合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
・計画、実践、フィードバックの流れで授業を行う。実践後、グループ討議を行い、指導実践の振り返り、指導案に加筆訂正を行う。 ・乳幼児期に適した運動遊びの内容であるか、対象年齢の子どもへの配慮事項を考慮した指導ができているか等、討議を行うことで理解を深めていく。担当教員は、保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			
【受講上の留意点】			
・実技では、けがの可能性を考慮し、ハザードとなる要因はできる限り取り除く。次の①～③について、理解し準備すること。 ①体に合ったサイズの運動着と靴（体育館シューズ）を着用すること。 ②アクセサリーや腕時計、スマートフォン等、けがを誘発する要因となるものは身に付けないこと。 ③他の受講生に危険が及ぶ可能性のある服装や爪の状態（長い爪、ネイルアート含む）等での受講はしない。 ・授業中のスマートフォンの使用については、教員の指示に従うこととする。授業中の不正使用については、「授業へ取り組む姿勢」が低いものとみなす。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	地域福祉論		愛洲・中里・江尻・出沼
【授業の到達目標・およびテーマ】			
地域福祉とは、地域に暮らす子どもをはじめ全ての人々が、その人らしく安心、快適に生活ができる状況を地域の人々や、行政・民間の組織の参加によって創り出す事業である。子ども・子育て世帯、障害者、高齢者等の多様な人々と支え合う、地域づくりの活動でもある。これらは、児童に対する大人の役割として、子どもの権利条約にもうたわれているように「児童の最善の利益」を保障しなければならない。子どもの成長を地域社会が支えるため、何を行うべきかを考えていく。現代における、子どもをはじめ多様な人々が生活するコミュニティと、地域福祉の現状と課題を考える。「こども食堂」や多世代の居場所等の地域福祉活動の事例等、フィールドから実践的に学ぶ。			
【講義概要】			
講義全体として、次の3点を中心に学ぶ			
1. 地域福祉に関連する理念、制度、歴史等			
2. 地域福祉の各領域と、各地域の活動の事例、地域の子育て支援活動等のフィールドワーク			
3. 子ども・子育て支援を中心とした地域福祉の課題や未来のあり方			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション・地域福祉とは何か		
2	地域福祉の歴史と理念		
3	地域福祉の制度と計画		
4	コミュニティとソーシャルキャピタル		
5	高齢者福祉と地域包括ケアシステム		
6	施設見学		
7	子ども・子育て支援と地域		
8	施設見学		
9	障害者福祉と地域生活		
10	多文化共生と地域福祉		
11	施設見学		
12	コミュニティワークと住民参加		
13	地域福祉計画の事例と考察		
14	地域福祉の未来と課題		
15	まとめ・発表		
【成績評価方法】			
①試験70%、②授業への参加・意欲30%として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は、こども食堂・フードパントリーと、これらの活動のスタートアップ講座等、地域における子ども・子育て支援活動を行ってきました。			
1999年から横浜市の簡易宿泊所街「寿町」の地域福祉、生活困窮者の医療支援活動、精神障害者の地域生活支援等を行ってきました。上記の実践の経験、事例等を活かした授業を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		真田 祐
【授業の到達目標・およびテーマ】			
地域での子どもの生活や豊かな成長・発達にとって、児童館の果たしている役割・機能と基本的な理念、実際の運営に求められること、放課後児童クラブの目的・役割と基本的な理念、運営に求められる基本を学ぶ。			
【講義概要】			
今日の子どもの育ち、子育ての現状や課題を明らかにしながら、児童福祉法の精神、国が定めた「児童館ガイドライン」および「放課後児童クラブ運営指針」を理解することにより、児童館の目的・役割、機能、運営のあり方、放課後児童クラブの目的・役割、機能、運営の在り方、児童館職員、放課後児童支援員の仕事内容、子どもの育ちと保護者の子育てを支援していく理念、方法などの理解を深めていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス 児童館・放課後児童クラブとは		
2	放課後児童クラブの目的・役割、制度、運営		
3	放課後児童クラブにおける育成支援・保護者支援		
4	児童館の歴史・法的根拠・設置状況等を理解する		
5	子どもを取り巻く環境の変化と課題を理解する		
6	児童館ガイドラインを理解する		
7	児童館における福祉的課題と地域連携について理解する		
8	児童館職員に求められる姿勢とスキルについて考える		
9	児童厚生員の多様な業務を理解し、現場実習に臨む心構えを学ぶ		
10	子どもにとっての遊びの意義		
11	子どもと遊び(1)		
12	体験学習（児童館）		
13	体験学習報告会		
14	児童館の可能性		
15	レポート		
【成績評価方法】			
①レポート提出40点 ②授業への参加・意欲・態度30点 ③リアクションペーパー30点の合計100点として成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
東京都内の児童館と放課後児童クラブに勤務してきた(児童館館長経験者も含む)方にも講義をお願いしています。実際の職員の仕事について、具体的な事例なども紹介していただきながら、児童館、放課後児童クラブの役割や運営、職員の仕事の理解を深めていきます。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2026年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	音楽Ⅲ		大石 立子
【授業の到達目標・およびテーマ】			
①コードネームによる伴奏法の習得			
②ハ・ト・ヘ長調の主要3和音を適宜伴奏で用いることが出来るようにする。			
③歌に合わせて掛け声や合図を出し、子供達の様子を見ながら弾き歌い出来るようにする。			
④転調について理解し、弾けるようにする。			
⑤連弾にチャレンジし、アンサンブルの楽しさを感じる。			
【講義概要】			
音楽Ⅰで習得した技術を更に深化させて、レパートリーの拡大をはかる。コードネームを理解して伴奏に用いることが出来るようにすると共に、子供の曲によく出てくるハ・ト・ヘ長調の主要3和音を習得し、個々の演奏力向上を目指す。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	コードネーム ハ長調①		
3	コードネーム ハ長調②		
4	コードネーム ト長調①		
5	コードネーム ト長調②		
6	第1回 授業内発表		
7	コードネーム ヘ長調①		
8	コードネーム ヘ長調②		
9	第2回 授業内発表		
10	連弾にチャレンジしてみよう①		
11	連弾にチャレンジしてみよう②		
12	まとめ（コードネーム）～3つの調の主要3和音の確認		
13	コードネームのプリント課題提出		
14	転調の理解と課題提出		
15	連弾のチャレンジしてみよう（動画提出）		
【成績評価方法】			
実技試験、授業への意欲・授業内発表、筆記試験1、課題提出を総合して成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
保育現場で使用頻度の高い曲や自分の弾いてみたい曲を、伴奏譜やコードネームを見て弾けるように、全体講義と個人指導を中心に授業を行います。学生の間にたくさんのレパートリーを作っていきましょう。			